

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.24) 一般社団法人 日本外科学会

代表者名 (理事長) 武富 紹信

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

○AMED からの支援を得て、国産企業による手術支援ロボットを用いて遠隔手術が実施できるように実証実験を行いながら、「遠隔手術ガイドライン」を作成した（令和4年6月）。この世界初となる「遠隔手術ガイドライン」は英訳し、本学会の英文機関誌「Surgery Today」で公開済みである。引き続き文部科学省、経済産業省、総務省などの行政や、産業界（ロボット企業、通信企業など）とも連携し、社会実装に向けて実証実験を重ねている。

○日本解剖学会と共同で作成した「臨床医学の教育研究における死体解剖のガイドライン」に基づき、これまで適切な Cadaver Surgical Training (CST) の普及に努めてきたが、日本医学会連合や日本歯科医学会連合の他、日本整形外科学会、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、日本産科婦人科学会、日本脳神経外科学会、日本泌尿器科学会、日本麻酔科学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、および日本口腔外科学会など共に、わが国の CST を統括する法人の設立を準備中である。

○厚生労働省からの補助金を得て「外傷外科医等養成研修事業」を実施し、大規模イベントに対するテロ災害などによる傷病者の診療に当たると共に、医療チームを指揮することができる外傷外科医の育成を行うと共に、実際に様々なイベント等の待機外傷外科チーム派遣および緊急派遣要請に応需するため、当該研修を修了した医師および看護師で「日本外科学会外傷外科派遣チーム：Trauma Surgical Assistant team (TSAT)」の体制を設置した。

b. 当該領域における国際的な役割

○German Surgical Society (GSS), American College of Surgeons (ACS), Society of University Surgeons (SUS), College of Surgeons of East, Central and Southern Africa (COSECSA), The Association of Surgeons of India (ASI) などの国際学会と持続可能な学術交流を行い、若手外科医の交換発表などを行った。

○英国の Royal College of Surgeon には、英国以外の若手外科医師が、英国各地の病院の様々な診療科で臨床研修ができる制度「International Surgical Training Programme (ISTP)」があり、本学会はその partner Institution に指定されている。この ISTP による研修を奨励している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

○本学会の活動はすべて外科学の進歩普及および外科医の質の向上を目的としており、もって国民の健康と福祉に寄与している。

d.学会運営上留意している点

○いわゆる法人法に基づく内閣府公益認定等委員会の指導内容を厳正に遵守しながら、女性や若手医師の積極的な登用など、ダイバーシティな観点にも留意している。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

○長い間に亘って、学会の専門医制度を保持し運営してきた。また、サブスペシャリティ領域の学会と深い連携を図りながら、日本専門医機構とも協働して、さらにより良い専門医制度の構築に協力している。それによって、日本専門医機構による新たな専門医制度が支障なく運営されるようにも協力している。

○日本医療安全調査機構の「医療事故調査・支援センター」の支援団体として、死因の調査分析事業に協力している。

○外科系学会と協働で National Clinical Database に参加し、外科症例登録のデータベース事業に協力している。